

# 翔

No.177

December

2005

## アベマキからムラサキシジミ終令幼虫を記録

大 脇 淳

ムラサキシジミは、石川県ではあまり見ることができないが、今年は県内各地で記録が相次ぎ、「翔」の2005年8月号は本種の報告ラッシュとなった。日本では、ブナ科19種がムラサキシジミの食樹として知られているが（仁平 2004：コナラ属はツクバネガシを除く全種から記録有）、石川県では、コナラとミズナラしか知られていない（松井 2002, 2003, 2005）。筆者は、ムラサキシジミの終令幼虫を、アベマキから記録したので報告する。



ムラサキシジミ終令幼虫の上を歩き回るアミメアリと思われるアリ

2005年8月25日 石川県金沢市俵 終令幼虫 1 頭目撃（アベマキ） 大脇 淳

本種の幼虫は、南向きの林縁に生える伐採後のアベマキの萌芽から発見された。幼虫には、3 mm程度のアリが数頭群がっていた。

末筆ながら、写真のアリを見ていただいた金沢大学の大河原恭祐氏、アベマキの同定を手伝っていただいた金沢大学の梅林正芳氏、本稿の投稿を勧めていただいた松井正人氏に深く感謝する。

### 《 参考文献 》

- 松井正人（2002）石川県金沢市でムラサキシジミの幼虫を観察．翔(157):1-2.  
松井正人（2003）ムラサキシジミを林道脇のコナラとミズナラから採幼．翔(163):3.  
松井正人（2005）金沢市と宝達志水町でムラサキシジミを観察．翔(175):3-4.  
仁平 勲（2004）日本産蝶類幼虫食草一覧．102p.

《おおわき あつし 〒920-0942 金沢市小立野1-23-20》

## 石川県輪島市中段町で3年連続ウスイロコノマチョウを採集

日吉 芳朗

2005年8月、輪島市中段町堂下の鳳至川河畔で、ウスイロコノマチョウ3♂1♀を採集した。いずれも、コムラサキ（黒色型）採集のために仕掛けたバナナ・ブランデートラップに、早朝6時30分から7時頃にかけて吸蜜にきたものである。本種は迷蝶であり、一時的発生は予想されるものの越冬はできない。それが、3年連続してほぼ同時期に、まったく同じ場所で観察されたことはたいへん興味深い。



2003年8月21日	輪島市中段町堂下	1♂	日吉芳朗（日吉、2004）
2004年8月11日	輪島市中段町堂下	1♀	日吉芳朗（日吉・他、2005）
2005年8月11日	輪島市中段町堂下	1♂	日吉芳朗
2005年8月17日	輪島市中段町堂下	1♂	日吉芳朗
2005年8月18日	輪島市中段町堂下	1♂1♀	日吉芳朗

2005年は、日を異にして4頭も採集され、周辺での発生もうかがわれる。11日と18日に採集した個体は、損傷もほとんどなく比較的きれいであったが、17日の個体は、かなり破損していた。

本地点は、河原田川との合流点のやや上流にあり、この川の下流は、唯一河畔改修が行われていない場所で、現在では特異な場所である。また、輪島市は、日本海に突出した能登半島の先端に位置し、これまでにタイワンアサギマダラ（日吉、2001）やリュウキュウムラサキ（渡部、2003）のような迷蝶も記録されているなど、迷蝶が飛来し易い場所なのかも知れない。

ウスイロコノマチョウが、この地へ毎年飛来し、時には発生していることも考えられ、今後は、広い範囲にわたりトラップを仕掛け調査することなど、多くの課題が残された。

## 《参考文献》

- 日吉芳朗(2001)石川県輪島市でタイワンアサギマダラを採集. 月刊むし(370):2.  
 日吉芳朗(2004)石川県輪島市でウスイロコノマチョウを採集. 翔(167):3.  
 日吉芳朗・日吉南賀子(2005)石川県輪島市での2004年の蝶の採集・観察記録から. 翔(172):2-4.  
 渡部良樹(2003)石川県舳倉島でのリュウキュウムラサキの撮影記録. 蝶研フィールド(205):25-26.

《ひよし よしろう 〒928-0001 輪島市河井町1部64-1》

## 石川県に於けるトゲナナフシの分布調査

松 井 正 人

石川県のトゲナナフシに関する最初の報告は、浅地（2003）と思われる。

2000年8月16日 石川県金沢市卯辰山 2♀ 浅地哲也

これが、石川県におけるトゲナナフシの初記録であり、この報告を基に、石川県内に於いてトゲナナフシの分布調査を行ったので、調査の過程と結果について報告する。

報告に先立ち、今回の調査で多くのご助言をいただいた石川県での第1発見者である浅地哲也氏に、厚くお礼申し上げる。

### ■調査時期

調査は、2003年から2005年にかけて、主に10月から12月に行った。

### ■調査場所と調査の進展

#### 1. 調査1期は照葉樹林を調査

トゲナナフシは南方系の虫であり、照葉樹林の虫と単純に思い込み、県内各地に残る照葉樹林で林床を歩く個体を捜したが、全く発見できなかった。

#### 2. 調査2期は低標高地の湿気った場所を調査

トゲナナフシは、高湿度状態で飼育すると長生きすることから高湿度を好むと判断し、また、唯一の発見地が金沢市卯辰山であること、水路からの発見が多いことから、2004年の11月から卯辰山を中心とした標高200m以下の谷や山裾など湿気った場所にあるコンクリート水路を中心に調査を進めることとした。

調査の結果、浅地（2003）に報告された以外の場所2箇所（金沢市鈴見台、金沢市東長江）で、トゲナナフシを観察することができた。

#### 3. 調査3期は街灯下の水路を調査

水路の調査中に、街灯下の水路に多いことから光に誘引されると思い、2005年10月から調査条件に「街灯下」を加え、調査ポイントが絞れたことから卯辰山周辺だった調査範囲を金沢市内に広げた。

卯辰山周辺では、いくつかの新しい観察地が見付かったが、卯辰山周辺以外からは観察できなかった。

#### 4. 調査4期は尾根周辺の街灯下の水路を調査

街灯下の水路を調査中に、谷や山裾より尾根の水路に多いことがわかり、2005年11月から調査条件の「湿気った場所の水路」を「尾根周辺の水路」に変更し、かほく市、津幡町、白山市の一部（旧鶴来町）、能美市、小松市、加賀市を調査範囲に加えた。

その結果、卯辰山から離れた新しい観察地が、ようやく能美市と小松市で見つかった。

## ■観察地

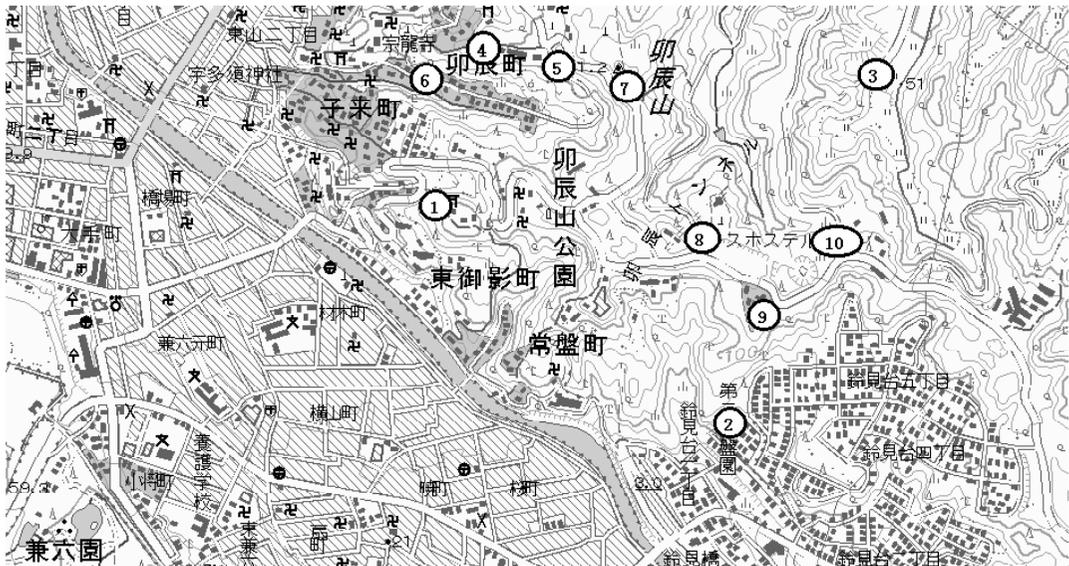
表－1. トゲナナフシの観察地

No	観察地	観察日	観察数	谷	山裾	尾根	街灯下	水路	その他
1	金沢市卯辰山東御影	2004年10月29日	10♀			◎	◎	◎	◎
2	金沢市鈴見台	2004年11月13日	15♀		◎		◎	◎	
3	金沢市東長江(トンネル入口)	2004年12月11日	3♀(死体)		◎		◎		◎
4	金沢市卯辰(宇多須奥宮)	2005年10月18日	16♀			◎	◎	◎	◎
5	金沢市卯辰(工芸工房)	2005年10月24日	8♀			◎		◎	
6	金沢市卯辰(住宅地)	2005年11月12日	11♀	◎			◎	◎	
7	金沢市末広(献体墓地口)	2005年10月23日	33♀			◎	◎	◎	
8	金沢市末広(金沢YH)	2005年10月26日	4♀			◎	◎	◎	
9	金沢市鈴見(鈴見緑地)	2005年10月26日	17♀			◎	◎		◎
10	金沢市鈴見(乙女の像)	2005年10月19日	15♀			◎	◎	◎	
11	能美市大口坪野峠	2005年11月20日	7♀			◎	◎	◎	
12	小松市瀬領栗津峠	2005年11月11日	7♀			◎	◎	◎	
13	小松市上荒屋	2005年11月20日	2♀		◎		◎	◎	

※ 観察日は、最も多く観察した日のみを示す

※ 観察者は、いずれも筆者本人

図－1. 金沢市卯辰山周辺の観察地(表－1のNoの位置を示す)



## ■主な観察地 (番号は表－1のNoの位置を示す)

## 1. 金沢市卯辰山東御影

浅地(2003)に報告された場所であり、生態観察に幾度となく通った場所である。ここでは、石段に張り付いている個体や水路の壁に張り付いている個体を、日中や夜間に多数観察した。2003年、2004年と街灯の存在に気が付かなかったが、2005年になって、ようやくその存在に気が付いた。

2. 金沢市鈴見台

浅地（2003）に報告された場所以外で最初に発見した場所であり、山裾の住宅地と山林の境を流れるコンクリート水路の中で観察した。この観察地では、11月から翌年の1月にかけて、何度となく観察することができた。ここは、街灯以外に住宅の灯りにも誘引されていると思われるが、発見当時は、光の存在に気が付かなかった。

3. 金沢市東長江

金沢市鈴見台の発見後は、どこを探しても見付からなかったが、水路をたどってたどり着いたトンネルの入り口付近で、ひからびた3♀を発見した。この発見で、街灯の光に集まる可能性に気が付いた。

4. 金沢市卯辰(宇多須奥宮)

谷や山裾の水路の調査から、尾根の水路へと調査の視点が切り替わる原因となった観察場所である。街灯下の水路の中や水路の縁で多数を観察した。

7. 金沢市末広（献体墓地口）

狭い範囲で最も多数のトゲナナフシを観察した場所である。深さ50cm程度の水路の中で重なり合う12♀を観察後、水路から連なる泥斜面に静止する個体を発見し、調査を進めると、泥斜面で21♀を観察した。夜間に見つけた場所であるが、日中の調査によって、水路以外にも多数の個体が街灯に照らし出される斜面にいることや、日中も移動せずに、同じ場所いることが分かった。

33♀を観察した1週間後の日中に訪れると、3♀しか発見できず、それ以外には腹部のない頭胸部だけの死体が2つ見つかった。おそらく、狭い範囲に多数の個体が居たことから、何者かに捕食されたと思われる。

11. 能美市大口坪野峠

どれだけ調査を進めても、卯辰山周辺でしか観察できなかったトゲナナフシが、卯辰山周辺以外で初めて観察できた。日中に、尾根、水路、街灯下の条件で調査を進め、能美市大口から坪野に至る峠道で発見した。この個体には、いずれも中脚と後脚の付け根に斑紋があった。

12. 小松市瀬領粟津峠

日中に、尾根、水路、街灯下の条件で調査を進め、小松市小山田から小松市瀬領にぬける峠で7♀を観察した。これらの個体には、能美市坪野の個体と同じく、いずれも中脚と後脚の付け根に斑紋があった。

図-2. 石川県内の観察地



図-3. 有紋個体と無紋個体



写真上:能美市、小松市の有紋個体

写真下:金沢市の無紋個体

#### ■まとめ

2003年から2005年にかけて石川県内でトゲナナフシの分布調査を行ったが、照葉樹林の林床調査では、トゲナナフシは全く観察できなかった。

2004年11月からは、標高200m以下のコンクリート水路にポイントを絞り、主に10月～12月の日中と夜間に調査を行い、調査を進めていく中で気付いた新たな観察結果を調査に織り込み、能美市と小松市で新たな観察地が見付かった。

金沢市卯辰山周辺の個体は無紋タイプ、能美市と小松市の個体は有紋タイプだった。

#### 《 調査に織り込んだ観察結果 》

- (1) 水路の底面よりも、水路の壁面に垂直に張り付いている個体が多い。
- (2) 12月になっても夜間に水路内を歩く個体がいる。
- (3) 街灯などの光に集まり、日中も移動しない個体が多い。
- (4) 谷周辺よりも尾根周辺で観察した個体が多い。

#### ■さいごに

夜間に住宅地周辺を歩き回るため、不審者扱いされた事があった。「昆虫調査」では信じてもらえず、たまたま採集していたトゲナナフシを見せ、納得してもらった。それ以後は、1頭だけは携行したり、生態写真を携帯したりして難を避けた。

#### 《 参考文献 》

浅地哲也 (2003) 特別寄稿 《石川県金沢市のトゲナナフシ》, 翔(165):1.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## 加賀市・山中町の合併に伴う住所表示の変更

蝶談会事務局

平成17年10月1日に、加賀市と江沼郡の山中町が合併し、新「加賀市（かがし）」が誕生した。この合併に伴う住所表示の変更についてお知らせする。

### ■合併後の住所表示

#### 1. 加賀市

旧「加賀市」の住所表示に変更は無い。

#### 2. 江沼郡山中町

「江沼郡山中町」が「加賀市」に置き換わり、町名の前に「山中温泉（やまなかおんせん）」が付いた。

表示例 江沼郡 山中町 こおろぎ町 → 加賀市 山中温泉 こおろぎ町  
 江沼郡 山中町 南町 → 加賀市 山中温泉 南町



### ■新旧対照表

旧 名 称	新 名 称	よみかた
江沼郡 山中町 こおろぎ町	→ 加賀市 山中温泉 こおろぎ町	こおろぎまち
江沼郡 山中町 南町	→ 加賀市 山中温泉 南町	みなみまち
江沼郡 山中町 湯の出町	→ 加賀市 山中温泉 湯の出町	ゆのでまち
江沼郡 山中町 栄町	→ 加賀市 山中温泉 栄町	さかえまち
江沼郡 山中町 河鹿町	→ 加賀市 山中温泉 河鹿町	かじかまち
江沼郡 山中町 東町二丁目	→ 加賀市 山中温泉 東町二丁目	ひがしまちにちょうめ
江沼郡 山中町 本町二丁目	→ 加賀市 山中温泉 本町二丁目	ほんまちにちょうめ
江沼郡 山中町 湯の本町	→ 加賀市 山中温泉 湯の本町	ゆのほんまち
江沼郡 山中町 富士見町	→ 加賀市 山中温泉 富士見町	ふじみまち
江沼郡 山中町 薬師町	→ 加賀市 山中温泉 薬師町	やくしまち
江沼郡 山中町 白山町	→ 加賀市 山中温泉 白山町	はくさんまち
江沼郡 山中町 東町一丁目	→ 加賀市 山中温泉 東町一丁目	ひがしまちいっちょうめ
江沼郡 山中町 本町一丁目	→ 加賀市 山中温泉 本町一丁目	ほんまちいっちょうめ
江沼郡 山中町 西桂木町	→ 加賀市 山中温泉 西桂木町	にしかつらぎまち
江沼郡 山中町 東桂木町	→ 加賀市 山中温泉 東桂木町	ひがしかつらぎまち

旧 名 称	新 名 称	よみかた
江沼郡 山中町 上野町	→ 加賀市 山中温泉 上野町	うえのまち
江沼郡 山中町 二天町	→ 加賀市 山中温泉 二天町	にてんまち
江沼郡 山中町 中田町	→ 加賀市 山中温泉 中田町	なかだまち
江沼郡 山中町 長谷田町	→ 加賀市 山中温泉 長谷田町	はせだまち
江沼郡 山中町 旭町	→ 加賀市 山中温泉 旭町	あさひまち
江沼郡 山中町 上原町	→ 加賀市 山中温泉 上原町	うわばらまち
江沼郡 山中町 塚谷町	→ 加賀市 山中温泉 塚谷町	つかたにまち
江沼郡 山中町 加美谷台	→ 加賀市 山中温泉 加美谷台	かみやだい
江沼郡 山中町 宮の杜一丁目	→ 加賀市 山中温泉 宮の杜一丁目	みやのもりいっちょうめ
江沼郡 山中町 宮の杜二丁目	→ 加賀市 山中温泉 宮の杜二丁目	みやのもりにちょうめ
江沼郡 山中町 下谷町	→ 加賀市 山中温泉 下谷町	しもたにまち
江沼郡 山中町 菅谷町	→ 加賀市 山中温泉 菅谷町	すがたにまち
江沼郡 山中町 栢野町	→ 加賀市 山中温泉 栢野町	かやのまち
江沼郡 山中町 風谷町	→ 加賀市 山中温泉 風谷町	かぜたにまち
江沼郡 山中町 我谷町	→ 加賀市 山中温泉 我谷町	わがたにまち
江沼郡 山中町 大内町	→ 加賀市 山中温泉 大内町	おおうちまち
江沼郡 山中町 枯淵町	→ 加賀市 山中温泉 枯淵町	かれぶちまち
江沼郡 山中町 片谷町	→ 加賀市 山中温泉 片谷町	へぎだにまち
江沼郡 山中町 坂下町	→ 加賀市 山中温泉 坂下町	さかのしもまち
江沼郡 山中町 小杉町	→ 加賀市 山中温泉 小杉町	こすぎまち
江沼郡 山中町 生水町	→ 加賀市 山中温泉 生水町	しょうずまち
江沼郡 山中町 九谷町	→ 加賀市 山中温泉 九谷町	くたにまち
江沼郡 山中町 真砂町	→ 加賀市 山中温泉 真砂町	まなごまち
江沼郡 山中町 四十九院町	→ 加賀市 山中温泉 四十九院町	しじゅうくいんまち
江沼郡 山中町 中津原町	→ 加賀市 山中温泉 中津原町	なかつはらまち
江沼郡 山中町 滝町	→ 加賀市 山中温泉 滝町	たきまち
江沼郡 山中町 菅生谷町	→ 加賀市 山中温泉 菅生谷町	すごうだにまち
江沼郡 山中町 荒谷町	→ 加賀市 山中温泉 荒谷町	あらたにまち
江沼郡 山中町 今立町	→ 加賀市 山中温泉 今立町	いまだちまち
江沼郡 山中町 大土町	→ 加賀市 山中温泉 大土町	おおづちまち
江沼郡 山中町 市谷町	→ 加賀市 山中温泉 市谷町	いちのたにまち
江沼郡 山中町 杉水町	→ 加賀市 山中温泉 杉水町	すぎのみずまち
江沼郡 山中町 西住町	→ 加賀市 山中温泉 西住町	さいじゅまち
江沼郡 山中町 上新保町	→ 加賀市 山中温泉 上新保町	かみしんぼまち

### 今年も珠洲でバス退治

長い長い年月、人の関与によつて作られ守られてきた郷土の貴重なため池生物群を、エイリアンから守ろうと、西原君が中心になって、今年もバス退治が行われた。

### 加賀藩所蔵の「昆虫の自然史」

ドイツの「昆虫学の父」とよばれるレーゼルが著した「昆虫の自然史」のオランダ語翻本、全四巻八冊が金沢大医学部記念館で見つかった。日本はおろか、現在のヨーロッパでも全冊そろっているのは希とか。二百五十年前に描かれた蝶、蛾などの卵から成虫までの彩色図約四百葉は、今でも輝きを放っている。

### 昔は何もかもが光り輝いていた

何年も前に展足した虫がそのままになっていて。かつては、厳冬期にガチガチの崖を崩していたのに、最近は全く意欲が湧かない。こんな澤田氏を、誰か誘つてよ。

### 松井氏、飽きもせずに溝掃除

夜は懐中電灯片手に溝掃除、日中も蝶そつちのけで溝掃除。十月は迷蝶シーズンなのに、トゲナナフシを探している。やっぱりおかしい。

### 南国はパラダイスだったが

鳥見をし、ツマベニやリュウムラに網を振り、暖かい与那国から帰った矢田氏、北陸の寒さに座骨神経痛が疼き始めた。片方ばかりが痛くて傾がつて歩いていたが、どうにか元に戻つてきたようだ。

### 写真イラスト作品大募集

来年の「翔」の表紙を飾る作品を募集している。デジタルデータならTIFFかJPG、フィルムならポジ、イラスト作品もOK。カラーで掲載予定。

### 蝶より気になるセミとカマキリ

沖繩に渡つた細沼氏、セミやカマキリを採集してきた。これといった蝶に巡り会えなかつたと言つてるが、だんだ

んはまつてきている。ことある毎に、ヒメダウスバだと言い、標本をちらつかせた例会の効果がでてきたようだ。

### 好天に誘われたのは

久しぶりに晴れ上がった十一月の休日、気温も上昇し、穏やかな採卵日和。医王山に繰り出した細沼氏だったが、好天に誘われたのは虫屋ばかりではなく、医王山は車と人の波で、採集行動がとりづら一日だった。

### 恩原高原のウスイロヒヨウモン

同高原のウスイロヒヨウモンモドキを保護するための調査活動が終了し、二年間の成果がまとまった。同地には本種が生息できる条件があり、継続的な保護活動によつて保護できるとし、保護活動のあり方も提案もしている。

### ついに与那国島まで飛んだ

一九八六年に始まつた県内でのアサギマダラのマーキング、再捕獲がない時期が長く

続いたが、九八年に初再捕獲され、〇一年には、日吉氏のマーキング個体が西表まで飛んだ。そして今年、宝達山のマーキング個体が日本の最西端の与那国島まで飛んだ。

### 例会の記録

十月六日(木)城南管工一階にて、午後八時から開催。

今回は、今話題のヒメカマキリとウスバカマキリを富沢氏が持参し熱く語つた。県内では、どちらも珍しいが、ヒメの記録は七例、ウスバは四例で、ウスバの方が格調が高い。手取川のライトに、ウスバが二頭も飛来し、外道ながらも胸の高鳴りを覚えた。

その他の話題は、トゲナナは湿地が好きか、ヒメカマは野外トイレに集まる、輝くセイボウ、菌糸ビンが三百本、ヒメカマ初ゲットは誰か、二冊のバタフライズ、「石川の昆虫」が八千円などなど。

参加は、浅地、中西、松井、浅野、細沼、大脇、井村、富沢の八人。

# 会員の動き・しゃばの動き

マテバの根際で神経衰弱  
ボロボロに食われたマテバ  
ジイ、幼虫を探せど、何処に  
もない。さればと、根際の  
枯葉をめくると蛹が現れた。  
気を良くした松井氏、根際に  
散らばる枯葉を一枚一枚ひっ  
くり返すのだった。

なんだかゴミムシが気になって  
キノコゴミがやけに気にな  
っていた。メクラチビと聞  
くと血が騒いだ。居ても立っ  
てもいられず、医王山に直行  
して溝掃除をすると、メクラ  
チビが採れた。溝がひかり輝  
いて見えた大脇君だった。

ミヤマアカネに注目してる  
アカネの中では珍しい流水  
性の幼虫だが、コンクリート  
水路が災いし、全国的に減少  
している。そんなアカネが近

所で観察でき、発生地が有る  
のか、それとも移動してくる  
のか気になる浅地氏だった。

まだまだうづくクロコムラ熱  
クロコムラ熱が完治しきら  
ない生田氏、野外産の輝きに  
惑わされ、三化成虫を求めて  
奥能登に向かったが、見事  
からぶった。これでようやく  
完治の兆しが見えてくるか。

井村会長再びメールに接続  
パソコンの調子がおかしく  
なつて以来、Eメールが使え  
ない状態だった会長、ようや  
くホットな話題のやりとりが  
できるようになった。後は、  
毎日メールを見るだけです。

触倉島調査に出かけたものの  
アサギマダラ調査で触倉島  
を訪れた日吉氏だったが、大

きなうねりにさいなまれ、陸  
に上がったも、しばし体がゆ  
れていた。島では常連の蝶達  
には会えたが、またもやアサ  
ギ姫には出会えなかった。

地味系のセセリが調査対象  
里山の動植物は、全国的に  
減少傾向にあると、石川県の  
里山の蝶の調査に乗り出す大  
脇君だが、オオチャバネ、ミ  
ヤマチャバネ、ホシチャバネ  
と渋い所に眼を付けた。

雨にも負けず、闇夜にも負けず  
せつかくの休日が雨でも、  
カマキリには関係ないと調査  
に出かけた浅地氏、カマキリ  
は灯火に飛来すると闇夜に出  
かけた松井氏、カマキリは台  
風もへつちやらと出かけた富  
沢氏、みんなおかしいぞ。

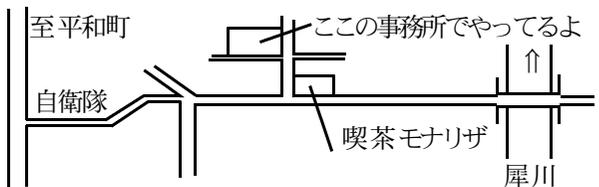
当てが外れたウラキンシジミ  
大脇君をたぶらかし、俵の  
大脇ポイントでウラキンの大  
量採卵を目論んだ細沼氏だっ  
たが、当てが外れたらしく、  
途中からアケビ採りに変身。

## 翔 177号

Tobu 2005年12月10日発行  
百万石蝶談会

http://homepage3.nifty.com/100man/  
金沢市大場町東871-15 松井方  
☎920-3121 ☎076-258-2727  
郵便振替 00750-8-562  
印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から  
TEL 参加もOKです (076-244-3318)



## 目 次 (177号)

大脇 淳：アベマキからムラサキシジミ終令幼虫を記録	1
日吉芳朗：石川県輪島市中段町で3年連続ウスイロコノマチョウを採集	2
松井正人：石川県に於けるトゲナナフシの分布調査	3
蝶談会事務局：加賀市・山中町の合併に伴う住所表示の変更	7
編集部：会員の動き・しゃばの動き	10